

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

W01

帽子の色 白

帽子の色 青

西京中村野田

13

1	—	2
3	—	5
3	—	4
4	—	0
2	PSO	3

帝塚山学院

14

審判1： 大坂 淳

審判2： 蛭名 広貴

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールで開催されました。その中で特に注目を集めたのが、女子によるエキシビジョンマッチ、西京中村野田高等学校（白帽）と帝塚山学院高等学校（青帽）の一戦です。まだ全国的には女子の水球チームは数が限られていますが、両校の生き生きとしたプレーは、多くの観客に「女子水球の楽しさ」と「可能性」を強く印象づけました。

試合は序盤から白熱しました。第1ピリオド、帝塚山学院が④鶴目、⑨宮内の得点でリードを奪いますが、西京中村野田も①亀井が退水を誘発して確実にゴールを決め、1-2と食らいつきます。続く第2ピリオドでは、西京中村野田が⑦吉中や①亀井の活躍で逆転に成功。一方で帝塚山学院も④鶴目の連続得点や⑧前田、⑤西村らが得点を重ね、互いに譲らない展開となりました。

第3ピリオドでは両チームのエースが火花を散らします。西京中村野田の⑦吉中が連続ゴールを決めると、帝塚山学院は④鶴目と⑨宮内を立て続けにネットを揺らし、点の取り合いに。会場からは「女子の試合もこんなに迫力があるのか」という驚きと歓声が広がりました。最終ピリオドでは西京中村野田が③井上や⑤亀井の得点で猛追し、最後は13-13の同点で終了。ペナルティーシュートアウトの末、帝塚山学院が勝利を収めました。

この試合の魅力は、勝敗を超えた両校の姿にあります。西京中村野田は「常に笑顔で水球を楽しむ」をモットーに、チーム全員が仲間を信じてプレーしました。帝塚山学院は「一丸となって戦う」姿勢が光り、ベンチからの声援やチームワークが勝利を呼び込みました。

水球は「水中のハンドボール」とも呼ばれるスポーツで、泳ぐ力、投げる力、そして仲間と連携する力が求められます。今回の女子エキシビジョンは、その魅力を存分に伝えてくれました。特に、ゴールが決まった瞬間の喜びや、仲間を励ます声は、観客の心を温かくし、水球を知らなかった人にとっても「やってみたい」「応援したい」と思える時間になったはずで

す。現在、日本の高校で女子水球部がある学校はまだ限られています。しかし、このような大会での活躍が広がれば、きっと全国各地に「女子も水球をやりたい」という声が増えていくでしょう。水球は誰もが楽しめるスポーツであり、特に女子選手たちが見せた明るく力強いプレーは、多くの未来ある後輩たちに勇気を与えるはずです。

今回の試合は、単なるエキシビジョンではなく、日本の女子水球の未来を照らす大きな一歩でした。西京中村野田と帝塚山学院、両校の選手たちが見せてくれた真剣さと笑顔こそ、多くの高校に女子水球部が広がっていく力になると信じられます。

最終スコアは13-14で帝塚山学院が勝利しましたが、会場にいた誰もが「女子水球の未来」を勝者と感じられる試合となりました。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原